

町政一般質問通告一覧表

平成26年6月定例会

平成26年 6月17日

番号	質問事件 (件名)	質問の要旨	質問の相手	議席番号 氏名
1	副町長退職の件について	突然の事で驚いている。経過の報告と今後について。	町長	3番 寺崎 俊男
	基金の運用について	現在、本町では基金の運用は定期預金が始どであるが、他の市町村では国債等で運用している。検討してはどうか。		
	し尿処理委託予定の民間会社の経営状態は把握しているのか	本年2月、議会にて現地調査を行い、設備等の説明を受けたが、決算関係等の説明はなかった。町長の見解を問う。		
	東日本大震災における被災地の復興支援のための職員の派遣について	昨年7月の一般質問では、現状では難しいとの答弁であったが、今一度、検討してはどうか。		
2	ふるさと納税について	全国から寄付を募り、それを積み立てて施策を実現する「ふるさと納税制度」が全国的に広がりを見せています。 佐々町においても、平成20年5月1日から「佐々町ふるさと応援寄付金」としてスタート、町民団体との協同のまちづくり促進事業に活用するとされていますが、これまでの実績はどうなっているのか。この制度の呼びかけに力を入れ、特典を付けることで本町の産業振興に結びつけ、町の活性化を図る考えはないか？	町長	4番 永安 文男
	町花「さざんか」の普及について	町花「さざんか」は、昭和51年4月1日に制定され、佐々の花として、公共施設に植栽され、時々は記念品として贈呈されたりしたこともありましたが、今では、「さざんか」が町花として知る人も少なくなりつつあるのではと思います。 これからの佐々町のアピールや住民意識の向上に役立たせるため、手立てを講じて普及させるべきと考えますが、町長の考えは？		
3	佐々町環境美化について	平成26年度一般会計予算書において、歳出(款)衛生費 環境美化推進協議会委員報酬費が計上してある。平成24年度、平成25年度も報酬費を計上してあり、平成24年度は支出されていないが、佐々町環境美化推進協議会は、どのように審議しているのか。	町長	8番 淡田 邦夫
	橋梁長寿命化対策工事について	平成25年度において、小浦大橋の塗装工事、部材取替工事を行ったが下流側、主桁部材に腐食があり、数年後、再度補修が必要で、どのような工事仕様書にて発注したのか。		

番号	質問事件 (件名)	質問の要旨	質問の相手	議席番号
				氏名
4	中山間地域の農地保全及び営農振興策のビジョンは	中山間地域の農地は、高齢化・後継者不足等で耕作放棄地が拡大している。 佐々町の農業を守るため、耕作放棄地解消策と営農振興策が必要と思う。 中山間地域の農地保全のため、農道の改修工事等に対し、本町の農業政策として新たな補助金制度を設ける考えはないか。	町長	6番 平田 康範
5	農業水利施設の保全管理について	① 高齢化、減農家する中で、農業用水路等の老朽化が顕著である。農業水利施設の現状と維持管理の実態を伺いたい。 ため池、パイプライン、頭首工・堰、水路、排水機場、樋門ごとの建設年度、管理主体、耐用年数、受益面積、関係実農家数	町長	7番 須藤 敏規
		② 長寿命化の方策は、どのように考えているか。		
6	し尿処理施設について	1月28日全員協議会の中で、前処理建設工程案が説明されたが、この工程表どおり実施されるのか。	町長	1番 福田 喜義
	防災対策として町内での訓練実施はされないのか	震災後、全国的に防災訓練等が実施されている。町内会でも訓練等できないか。		
	西九州自動車道について	3月28日九州地方整備局では、佐々～松浦間19kmについて測量、地質調査事業費が1億円配分されたと発表されたが、地元農家の方が何年もかかって区画整理され、今から営農が安心して出来ると期待されていた矢先、道路の計画があり地元の方の協力を得るため、地元の意見・要望について国・県に進言出来ないか。 道路計画の大茂地区について、二戸の農家で牛を飼育されているが、道路予定地として家屋にかかり牛舎を含めて移転先がないので、路線の変更が出来ないか、国・県に進言できないか。		

番号	質問事件 (件名)	質問の要旨	質問の相手	議席番号
				氏名
7	自主防災組織の 推進について	東日本大震災後、全国で自主防災組織の結成が推進されています。地域住民が「自分たちの地域は、自分たちで守る」という意識に基づき自主的に結成する防災組織ですが、いろいろと課題の多い中、佐々町はどう推進していくのか、尋ねたい。例えば、リーダーの育成・住民の意識向上・活動費・資機材等の助成・訓練・研修など	町 長	5 番 橋本 義雄
	町道整備について	町道は、基本的に通り抜けが出来なければならないが、通り抜けが出来ない町道がある。神田線～脇溝線に入り旧町営住宅までで行き止まりである。それから新八口線～塀の坂線に入り、これまた行き止まりで、脇溝線～塀の坂線まで120mの距離しかないが、これをつなぐことによって、普通の町道になる。脇溝線沿いには、住宅が多く建てられ、防災的にも是非整備をする必要があると思うがどうか。		
8	玄海原発の再稼働について	福井地裁は、5月21日大飯原発から250キロ圏内の住民の請求に対し、憲法で保障された人格権を認め、原発の再稼働を認めませんでした。 各原発から250キロの円を描くと、北海道の一部と沖縄県をのぞく日本列島がすべてが入ります。 このことは、日本には原発が立地する適地はないということを示しています。 住民の安心、安全を守る首長として、原発の再稼働を認めない意思を表明すべきである。	町 長	9 番 仲村 吉博